

日本文学史研究Ⅰ

科目ナンバリング JPH-201

選択 2単位

細田 明宏

1. 授業の概要(ねらい)

明治前期に成立した浄瑠璃『壺坂靈驗記』は人気を得て、こんにちも繰り返し上演されています。『壺坂靈驗記』の元となったのは、盲目の男沢市が壺坂寺の靈驗を得て開眼するという話(沢市開眼譚)でした。すなわち浄瑠璃『壺坂靈驗記』は、宗教文学が芸能の世界に取り入れられることによって成立した劇文学なのです。

本講義では、宗教文学としての沢市開眼譚が芸能の世界に取り入れられる過程を追うことで、宗教文学の諸相および人々との関わりや、劇文学化されることによるプロットの変化などを考察します。

2. 授業の到達目標

宗教文学および劇文学について理解を深めること、そしてその特色を他人に説明できること。

3. 成績評価の方法および基準

期末試験(60%)、小テスト・レポート(20%)、平常点(20%)を合わせて評価します。なお期末試験に代えてレポートを課す場合もあります。

4. 教科書・参考文献

参考文献

細田明宏 近代芸能文化史における『壺坂靈驗記』—生人形から浄瑠璃、そして歌舞伎・講談・浪花節へ— ひつじ書房

5. 準備学修の内容

①事前に授業内容の概要を配布(PDFファイル)するので、それを読んでおくこと。なおその概要は、プリントアウトまたは要点をノートに書くなどして授業に臨むこと。②独立行政法人日本芸術文化振興会が運営するウェブサイトである文化デジタルライブラリー(<http://www2.ntj.jac.go.jp/dglib/>)の「舞台芸術教材で学ぶ」のうち、「文楽」「演目解説」「民俗芸能」を見ておくこと。

6. その他履修上の注意事項

7. 授業内容

- 【第1回】 仏教と芸能
- 【第2回】 浄瑠璃『壺坂靈驗記』
- 【第3回】 西国霊場と靈驗譚
- 【第4回】 西国巡礼
- 【第5回】 縁起
- 【第6回】 絵解き
- 【第7回】 説教
- 【第8回】 壺坂寺の靈驗譚
- 【第9回】 開帳と靈驗譚
- 【第10回】 錦絵『観音靈驗記』
- 【第11回】 見世物
- 【第12回】 生人形『西国観音靈驗記』
- 【第13回】 生人形の沢市開眼譚
- 【第14回】 生人形から浄瑠璃へ
- 【第15回】 まとめ(期末試験)